

教員の養成の目標及び当該目標を達成するための計画に関すること

本学の機関レベルの教育目的は学則に示す通り、教育基本法及び学校教育法の定めるところに従い、高等学校教育の基礎の上に福音主義キリスト教信仰に基づいて、幼児教育に関する専門教育を授ける完成教育機関であると共に、広く教養を培いキリスト教的人格を具えた良き社会人を育成することである。また、幼児教育学科では、キリスト教精神に則り、現代社会の多様な要請に応え、個性を尊重する保育を実現する専門性の高い幼児教育者の育成を目的とし、本学の教育目的及び社会的使命を達成することを掲げている。

①幼児教育学科の教育目標

私たちの教育は、一人ひとりの命を尊び人格として尊重することを大切に、真理を探究し続ける意思を育て、豊かな人間性の育成を目指しています。

そのため、学生が、教育・保育の専門的知識・技能を身に付け、学問や実践を通して確かな思考力・判断力・表現力を培い、自ら考え誠意を尽くし、他者と協働してよき社会人、保育者となるための教育を行います。

②目標を達成するための計画

教育目標をふまえて、以下のディプロマポリシー(学位授与の方針)の1・2・3の大項目とそれを具体化した各項目について3つの能力を保証します。

<ディプロマポリシー>

1. 知識・理解…幅広い教養や、幼児教育・保育に関する専門的な知識・技能を習得し、子どもを理解することができる。

- ① 人類の文化、社会と自然に関する知識について論理的に理解している。
- ② 教育学・保育学の専門的な知識・技能を習得し、体系的に理解することができる。
- ③ 乳幼児期から児童期の子どもの発達過程を理解している。

2. 思考力・判断力・表現力…社会の課題を見つけ、自ら考え伝え合い、問題解決を行うことができる。

- ① 子どもや社会に関わる課題を発見し、問題解決に向けて取り組むことができる。
- ② 日本語と外国語を用いて、コミュニケーションをする力を身に付けている。
- ③ ICTを用いて情報を収集分析し、モラルに則って効果的に活用することができる。

3. 主体性・多様性・協働性…人権意識や倫理観を持ち、社会の一員として行動し、多様な他者と協調して社会に貢献できる。

- ① キリスト教精神に基づき、社会の一員として主体的に行動できる。
- ② 保育実践技術を活用し、自己の活動を総合的に評価することができる。
- ③ 社会の一員として人権意識や倫理観を持つ。

ディプロマポリシーで表された能力を身に付け、幼児教育学科教育目標を達成するための計画として、以下の観点で教育課程の配列及び教育方法を行います。

<カリキュラムポリシー>

(1)卒業時にディプロマポリシーが達成できる科目群を配置する。

本学の授業科目は履修指針表に示される教養基礎科目、専門教育科目の開設によって、教育課程が編成されています。卒業要件で求められる教養基礎科目および専門教育科目を修得することでディプロマポリシーに示される「知識・理解」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」の各項目に示されるような資質・能力を育成します。

(2)免許・資格を取得し、教育・保育の専門性を高める科目群を配置する。

さらに、幼稚園教諭2種免許状及び保育士資格、社会福祉主事任用資格を取得し、専門性を高めるために、本学では教養基礎科目、専門教育科目に、免許状・資格必修科目、学科必修科目や選択科目、プログラムでは独自の必修科目・選択科目を配置し、教育課程を編成しています。

(3)適切な教育方法と評価を実施する。

各授業は授業内容に合わせて講義、演習、議論、グループワーク、課題、実習、オンライン学習などの方法によって効果的に展開されます。また成績評価は、プレゼンテーション、レポート、筆記試験、実技試験などによって行われます。各科目の学修方法、学修課程、評価の詳細については学科目概要(シラバス)に示されています。

(4)卒業や免許・資格取得のために、学びの体系性と系統性をもって科目を配列する。

本学では開設科目を①教養・基礎の学び ②専門の学び ③実践の学びの3つのカテゴリーで分類し、2年間での学びの体系とそれぞれの科目の相互の関連を系統的に示しています。2年間の学びでは①教養・基礎の学びを土台の学びとして位置付けます。それらの基礎の上に、教育・保育に関する②専門の学びが体系的に配列されています。③実践の学びでは、①②の積み重ねの総まとめとしての科目や実習が配列されています。

教育課程は入学から卒業までの時系列の中でそれぞれの科目の系統だった配置がなされ、ディプロマポリシーに示す資質能力の獲得や免許・資格の取得を目指します。

① 教養・基礎の学び

本学の建学の精神に示されるキリスト教的人間観に基づく、人格の土台としての学びや人間と社会、教育・保育に関する原理などの学び、基本知識を広げる科目群です。教養基礎科目「聖書と現代人」や「英語1」、専門教養科目「教育原理」「保育原理」「教育課程論」「保育者論」を配列しています。また、健康を考え理論的実践的知識・技能を習得する「体育講義」などを配列しています。

さらに学科必修科目として「キリスト教保育」「こどもと運動」、免許・資格取得のために「情報機器演習1」などの科目が配列されています。

② 専門の学び

教育・保育、福祉に関する専門的な学びの科目群です。子どもに関するさまざまな支援の内容と方法に関する専門的な知識・技能を身に付けるために、講義及び実践演習や対話などを重視しながら学びます。教育・保育内容に関わる専門教育科目「保育内容総論1」「保育心理学」「幼児と健康」「幼児と人間関係」「幼児と環境」「幼児と言葉」「幼児と表現1（音楽）」「幼児と表現2（造形）」などが配列されています。また、教育実習(幼稚園)、保育実習(保育所、施設)につながる専門の学びとして「音楽1」「音楽2」「音楽3」「図画工作1」「図画工作2」を学科必修科目として配列しています。

自由選択の認定絵本土の称号を得る科目として「こどもと絵本1」「こどもと絵本2」が配列されています。本学ではさらに以下のプログラムが用意されています。

＝幼児音楽プログラム＝

豊かな音楽観をもち、幼児教育に音楽を生かすことのできる創造性のある人材となることを目標として、音楽を通じたチームプロジェクトや心の交流によって人間としての成長を目指すため、以下の科目を編成しています。

「幼児音楽1」「幼児音楽2」「幼児音楽3」「公開演奏」「アンサンブル（合唱・合奏）」^注

注)「アンサンブル（合唱・合奏）」は幼児音楽プログラム以外の学生も選択することができる科目です。

＝国際保育プログラム＝

国際的な視野をもった、グローバル時代の保育者にふさわしい人材の育成のために、世界の多様な保育方法論と多文化保育に求められる英語力の強化をめざす以下の科目を編成しています。

「海外の保育」「海外の保育カリキュラム」「保育英語」^注「保育英会話」「保育ドキュメンテーション」

注)「保育英語」は国際保育プログラム以外の学生も選択することができる科目です。

③実践の学び

「教養・基礎の学び」および「専門の学び」で身に付けた価値観や知識、技能を活かして各自の学修課題を解決し、社会や保育現場で活用するための、総まとめとして「卒業研究」を位置づけています。

さらに学科必修として幼稚園の「観察実習」、免許取得に関わる「教育実習（幼稚園）」「保育実習1（保育所）」「保育実習1（施設）」「保育実習指導1（保育所）」「保育実習指導1（施設）」などの実習系の科目が配置され、乳幼児との関わりや職場の構成員として、体験やコミュニケーション、省察を通して保育実践力や社会人基礎力を育成します。「保育・教職実践演習（幼稚園）」や「卒業研究」では知識・理解と共に現場体験、地域のボランティアやチームでの教育・保育の取り組みによって、社会や子どもを取り巻く現代的な諸問題を学び、他者と協働して問題解決等に取り組む能力や奉仕の精神を育成することを目指します。